



下宿生の経済格差は深刻な状況です。引き続き、安心・安全・快適かつ安価な(コストパフォーマンスの良い)物件に入居希望が集中するものと思われます。

仕送りゼロ 過去最高

下宿大学生の8・3%

親元を離れ、仕送りゼロでアパートなどで下宿する大学生が8・3%と、データの比較ができる73年以降最高となったことが、全国大学生協連合会の調査でわかった。仕送り5万円未満の学生も2割を超えた。下宿生の1カ月の食費はこの30年で最少の2万4430円となり、経済状況の悪化が学生生活に大きな影響を与えている様子が浮き彫りになった。

調査は昨秋に実施。国公立35大学の学生約1万人の回答をまとめた。

自宅生、下宿生ともに1カ月の仕送りやアルバイトなどの収入の合計は前年より減り、特に下宿生は12万8890円で、5370円も減った。仕送りゼロの下宿生は10年前の4倍に上った。5万円未満は20・7%で79年以降、最高だった。

下宿生の支出で前年より増えた

のは貯金だけで、食費のほか住居費、電話代など軒並み減った。暮らし向きの今後の見通しは「苦しくなる」と答えた学生が全体の32%で前年より5%増えた。経済格差を「感じている」と答えた学生は46%いた。

就職についても「不安を感じている」とした学生は全体の76%で前年より5%増加。特に理系は74%(前年比6%増)、医・歯・薬学部に限ると61%(同15%増)と急増しており、専門を問わず不安が広がっている様子が浮き彫りとなった。

朝食の摂取率も下宿や寮の学生は61%と低かった。同連合会の和田寿昭専務理事は「食費の節約が健康や生活の乱れにつながるのにか心配している」と話し、大学生協の食堂でも値上げをしないよう努めるという。

(葉山梢)

「USAGI通信はメールでの送信も可能です。メールでの送信をご希望の方は、弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。」